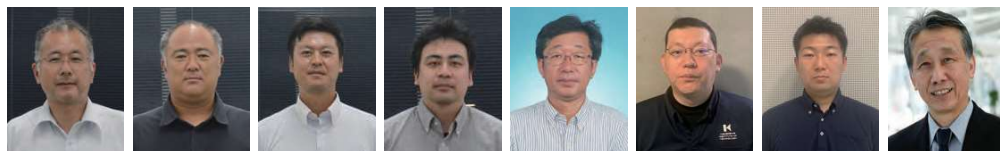


次期役員候補者のご紹介

本年11月2日(土)の同窓会総会において、2年ごとに実施している役員選出を行いますので、その候補者の皆様をご紹介します。



会長 中山 裕之 副会長 椎名 良一 副会長 久保田 昌彦 理事 畑 雅博 理事 三井 和博 理事 川崎 祐二 理事 遠藤 昌彦 理事 関口 幸三
昭和54年卒 昭和45年卒 昭和61年卒 昭和43年卒 昭和48年卒 昭和57年卒 昭和59年卒 昭和62年卒
大学1期 高専3期 大学8期 高専1期 高専6期 大学4期 大学6期 大学9期
電気工学科 電気工学科 機械工学科 電気工学科 工業化学科 機械工学科 電気工学科 工業化学科



理事 柴山 信夫 理事 新田 晃司 理事 二神 洋二郎 理事 大谷 昌生 理事 秋野 裕 新任理事 三橋 貴行 新任理事 天貝 正吾 監査 根本 光正
昭和63年卒 平成9年卒 平成14年卒 平成26年卒 昭和54年卒 平成12年卒 平成21年卒 昭和48年卒
大学10期 大学19期 大学24期 大学36期 大学1期 大学22期 大学31期 高専6期
電気工学科 電気電子工学科 情報工学科 ホームエレクトロニクス観望学科 電気工学科 電気電子工学科 応用化学科 機械工学科



新任 監査 長島 智之
昭和48年卒
高専6期
機械工学科



静岡・東海地区支部会懇親会報告

静岡・東海地区支部会が開催されました。

会場：静岡 ホテルアソシア静岡 日時：2024年7月27日(土) 17時



教育関連業界支部設立総会

教育関連業界支部設立総会が8月3日(土)に本学にて開催され、設立が承認されました。

会では、参加者の自己紹介および近況報告があり発展的な情報交換となりました。

次年度以降もこの輪を広げ、定期的に開催予定です。皆様の参加と情報交換を楽しみにしております。

参加された方々の所属：大学9名、短期大学校：1名、高校6名、中学2名、企業1名、学生3名

2024 秋
Vol.38IKUTOKUGAKUEN
News Letter 2024

幾徳学園同窓会会報

<http://www.kait-ext.com/kaitweb/>

■ 2024年10月1日発行 ■ 発行人／中山 裕之 ■ 発行／幾徳学園同窓会

○ 住所変更及び問い合わせは下記へご連絡下さい。〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030
幾徳学園同窓会事務局(学生課内) gakusei@kait.jp TEL.046-241-9394 FAX.046-242-3529

Message

会長ごあいさつ

幾徳学園同窓会 会長

中山 裕之

幾徳学園同窓会の皆様、いかにお過ごしでしょうか。今年はパリオリンピックに代表される各種社会活動が正常化し、アフターコロナの生活様式も徐々に確立されつつあるのではないかと思います。

同窓会では、新たな取り組みとして教育関連業界支部会の設立を準備してきましたが、8月3日に設立総会を開催し、20名以上の関係OBのご参加をいただきスタートを切る事が出来ました。教育環境の変化を肌で感じられている関係者の情報共有や、この変化にどう対応していくべきかなど、将来に向けた取り組みの実現につながるものと思いますので、多くの関係OBの方のご参加をお待ちしています。

また、学内で活動している学友会との情報交換を行い、学内イベントの協業などを通じて今後も変化を続ける学園に対する支援活動の強化にも取り組んでいます。皆様のご理解とご協力をお願いします。

今回も次項で、社会で活躍されている卒業生を紹介させていただいております。これま

での経緯やエピソードをいただいておりますので、ぜひ一読ください。

同窓会総会につきましては、11月2日(土)に開催予定の幾徳祭・ホームカミングデーに合わせ、同日、皆様にお集まりいただき開催する前提で準備を進めています。特に今回は、理事の改選も議題にありますので会員の皆様には是非学園にお越しいただき総会へご参加いただきますとともに、変化するキャンパス、学生の活動を見学していただきたいと思っています。

支部会、地区別懇親会につきましては、すでに静岡・東海支部会には多くの方のご参加をいただき無事終了いたしました。今後、福岡、京都、仙台の各懇親会を予定しております。会員の皆様からの貴重なご意見をいただける場であり、世代間の交流の場でもありますのでより多くの方にご参加いただけますようお願いしています。

会員の皆様には引き続き健康にご留意いただき益々活躍されます事を理事一同心より祈念しています。

幾徳工業大学二期生、二期生の卒業生をご紹介します。

※同窓会総会開催のお知らせ

ホームカミングデーについて

幾徳祭に合わせて、11月2日(土曜日)に大学主催によりホームカミングデーを開催予定です。

当日は、大学及び同窓会からの記念品のご用意もあります。

なお、開催場所や開催形式など詳しい内容につきましては、状況により変更が生じる場合もありますので大学HP等でご確認をお願いいたします。

幾徳祭は、11月2日、3日開催します。

第51回通常総会開催について

- 開催日時 令和6年11月2日(土) 13:00～
- 開催場所 神奈川工科大学 K2号館4階 1407教室
- 総会次第
 - (1) 開会の辞
 - (2) 会長挨拶
 - (3) 議長選出(会則第15条2項)
 - (4) 議事
 - 第1号議案 令和5年度活動報告並びに決算(案)承認の件
 - 第2号議案 役員改選の件
 - 第3号議案 令和6年度活動計画(案)及び予算(案)承認の件
 - (5) その他
 - (6) 閉会の辞

Contents

会長ごあいさつ…………… 01
ホームカミングデーについて
第51回通常総会開催について
卒業生の活躍…………… 02～03
次期役員候補者のご紹介…………… 04
静岡・東海地区支部会懇親会報告
教育関連業界支部設立総会

卒業生の活躍



学業でもアルバイトでも社会人でも失敗の連続 その積み重ねが財産となり、人生を切り開く鍵に

木村 昌志 さん

株式会社JCU 代表取締役会長兼CEO

1958年生まれ 宮城県出身
1976年3月 宮城県古川工業高等学校卒業
1976年4月 幾徳工業大学(現神奈川工科大学)入学
1980年3月 工学部工業化学工学科 卒業
1980年4月 株式会社荏原電産 入社
2004年4月 同社 プリント回路薬品事業部長
2010年4月 事業譲渡により「荏原ユーージャイト株式会社」へ入社
2010年8月 タイ駐在(副社長)
2012年10月 「株式会社JCU」に社名変更
2013年6月 執行役員
2016年4月 執行役員 経営戦略室長
2016年6月 取締役 常務執行役員 経営戦略室長
2018年4月 代表取締役社長 兼 最高執行責任者(COO)兼 経営戦略室長
2021年4月 代表取締役社長 兼 最高経営責任者(CEO)
2024年6月 代表取締役会長 兼 最高経営責任者(CEO)現職～

JCUはめっき薬品とめっき装置をそろえる表面処理の総合メーカーです。主力の自動車やエレクトロニクス産業向けに加え、建材や水栓金具など様々な分野に製品を提供しています。「表面処理技術から未来を創造する」をモットーに、環境や社会に貢献できる企業を目指してまいります。

「本学を選んだ理由をお教え下さい。」

木村 工業高校を卒業すると就職が多かったですが、オイルショックの就職難で、大学へ行こうかと。高校で化学工学を選択し、大学でも続けたかったのですが、学べる大学は少なく、姉が東京で教師をしていたので、幾徳工業大学にたどり着きました。

「本学での思い出深いお話をお聞かせ下さい。」

木村 「機器分析」の研究室だった泉研に所属。有機系物質が何種類も混ざっているものをどう分離するか、高速液体クロマトグラフィー(HPLC)といった化学分析の手法で研究しました。有機系物質は何百万種類もあり、合成物をどう使うか、濃度はどうか、失敗ばかりでしたが面白かったです。学生時代も社会人になってからもそうですが、失敗の連続。しかし、失敗を積み重ねたことが私の財産となりました。「若い人たちは、失敗を恐れずに挑んでほしい」ですね。

経済的なこともあり、学び以外では日夜アルバイト。クリスマスケーキ作りやホテルのリネン交換はスピードとの戦い。コンビニでは、販売から在庫管理、人員管理も任せられ「卒業後に入社しないか」と言われたほどでした(笑)。多様なアルバイトを通し、コミュニケーションスキルも鍛えられ、この経験は社会人になってかなり役立ちました。

「特に印象深いことがあれば、お聞かせ下さい。」

木村 姉の影響もあり、教職課程を取得。3年次の教育実習は母校の古川工業高校に行き、貴重な経験をさせていただきました。先生方は喜んでフォローして下さい、生徒にも大歓迎されました。

大学での講義は企業出身の先生が何人かおら

れ、プラントやエンジニアリングなど現場での体験談を色々話して下さいました。失敗談も含めて、とても興味深く、面白い内容ばかりでした。

「現在、表面処理技術の総合メーカーであるJCUの会長を務められておられますが、卒業後はどのような企業に就職なさったのですか。」

木村 就職難で、上場企業の募集はほとんどなかったとき、井口先生から「荏原製作所の子会社の荏原電産で化学出身を募集している」と言われました。就職試験は電気系の問題で、難しかったです。試験日に内定をいただき就職。私は「プラスチック部」に配属されました。荏原製作所の兄弟会社の荏原インフィルコの水処理関係で使われる中和や脱臭設備といった塩加工やFRP加工(繊維強化プラスチック加工)を受託していた部署で、部内に化学出身者がいなかったのが配属されました。さらに荏原製作所では、アメリカで始まった電子関連の表面処理薬品に目をつけ、プラスチック部が担当することに。翌年の1981年4月には、ウハウハウの勉強でアメリカへ行き、6月にはプリント回路基板や電子回路に関する技術や製品を展示する国際的な「JPCAショー」に参加する



株式会社JCU 総合研究所

ために帰国します。

なお、プリント基板関係の薬品の製造販売で、めっきは荏原ユーージャイト、エッチングは荏原電産というすみわけがありました。私は荏原電産で、プリント回路基板系の仕事を30年ほど行い、2010年にその事業が荏原ユーージャイトに譲渡され、転職。

「事業譲渡で荏原ユーージャイトへ入られ、どのような経緯で会長職に就かれたのですか。」

木村 2010年8月にタイ駐在を命じられ、タイ在任中の2013年6月に執行役員、2016年3月に本社に戻り、4月に経営戦略室長になりました。様々な立場と経験を通し、2018年4月に代表取締役社長、2024年6月に会長に就任しました。

振り返れば苦労の連続でしたが、あまり苦労と感じませんでした。今後は、後世、跡を継ぐ人たちがきちんと将来暮らしていけるように、特に環境に配慮した事業を進めていきたいです。

「本学の学生にひと言お願いします。」

木村 大学で得た学びを活かし、世の中に貢献できる人材を目指してほしい。また「気づきが大事」、それを発想から創造につなげていただきたいです。

「今日はありがとうございました。」



めっき処理した自動車部品

トランスデューサーの面白さを大学で学び マイクロホンの設計・開発ひと筋40年超

秋野 裕 さん

博士(工学) AKINO 代表

本学が「手と頭で学ぶ大学」だったことは本当に良かったと思います。実験が多い大学だった利点は、社会に出てから実感しました。会社で、優秀な大学出身者と最初の仕事をするときには、はんだごてを使う場面や「シミュレーターでやりました」と言われ、実際に経験していないことに驚きました。手で学んだことはエンジニアにとって特に大切だと思いました。

1956年生まれ 北海道出身
1975年4月 幾徳工業大学(現神奈川工科大学)入学
1979年3月 工学部電気工学科 卒業
1979年4月 陸上自衛隊 幹部候補生学校入校
1982年8月 西部方面通信群 第302通信支援中隊 有線小隊長 退官
1982年9月 (株)オーディオテクニカ入社/製造部 製造技術部 技術部
1985年3月 (株)オーディオテクニカ退社
1985年4月 アイワ(株)入社 音響開発部 開発課(マイクロホンの開発)
1987年3月 アイワ(株)退社
1987年4月 (株)オーディオテクニカ入社/技術部3課 研究開発室
2008年4月 神奈川工科大学大学院 工学研究科博士前期課程 電気電子工学専攻入学
2010年3月 同大学院 博士前期課程 同専攻修了
2010年4月 神奈川工科大学大学院 工学研究科博士後期課程 電気電子工学専攻入学
2013年9月 同大学院 博士後期課程 同専攻修了/学位 博士(工学)
2016年7月 (株)オーディオテクニカ定年退職
2021年7月 (株)オーディオテクニカ契約社員 契約終了
2021年8月 個人事業 AKINO創業～

「本学を選んだ理由をお教え下さい。」

秋野 釧路工業高専の3年修了時に留年が決定したため、大学進学を希望。この時点で受験ができた幾徳工業大学の一期生として入学しました。

父は陸上自衛隊員でした。当時、隊員間の連絡用の通信機を自宅で作作していました。それを見て真空管で拡声アンプ付きスピーカーを作り、小学生の時から「電気は面白い」と興味をもちました。

「本学での思い出深いお話をお聞かせ下さい。」

秋野 良い成績ではなかったのですが、第一希望の研究室には入れませんでした。トランスデューサーの研究をされていた小林武先生が「トランスデューサーは面白いよ」と勧めてくれました。小林先生の研究室に行ってみたら見事にハマりました(笑)。この先生の一言からトランスデューサー(マイクロホン)を設計開発し続け、40年以上、実に面白い人生を過ごしていると思っています。

学部生の頃は高度成長期で、オーディオブームでもありました。「高価なオーディオは音がいい」と言われていて、「振動板が肝だ」などの話もあり、私は「振動板がなければいいのではないかと」考え

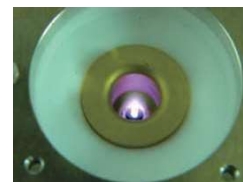


真空管を用いたヘッドホンアンプ(現在製造販売中)

ました。当時、イギリスやフランスなどで「イオンスピーカー」が販売されていたので「イオンマイク」も作れるのでは、と学部時代に発想しました。約30年後に「イオンマイクロホン」の研究で本学大学院に入学するとは考えてもいませんでした。

「卒業後、陸上自衛隊に入られ、その後、オーディオテクニカに入社。在籍中に本学大学院の博士課程に入学し修了するまでの経緯をお教え下さい。」

秋野 父親が自衛官だったことと、就職難だったこともあり、陸上自衛隊の幹部候補生学校に入隊。3年程たって、エンジニアになった仲間が「こういう設計をした」、「基板を描かせてもらった」という話を聞いて羨ましく思い、音響メーカーに売込みにいきました。そして、1982年9月にオーディオテクニカに入社。技術部に配属になり、マイクロホンの設計をスタートさせます。一時期、アイワに移り、マイクロホンの開発に従事。2年間でまたオーディオテクニカに戻りました。いろんな種類のマイクロホンを開発し、「最後は、イオンマイクロホンかな?」と上司に話したところ、会社が「大学院で研究すれば」となって、学費と研究費を出して



イオンマイクロホンのプラズマ

くれました。2008年4月に本学大学院の博士前期課程に入学し、最終的に博士後期課程まで修了。「イオンマイクロホンの研究」で博士(工学)をいただきました。マイクロホンひと筋の生活ができたのも会社と大学のお陰だと思っています。

「マイクロホンの開発・設計のエンジニアとしてのやりがい、目標等をお聞かせ下さい。」

秋野 開発・設計したマイクロホンは243機種以上。権利化した特許は音響関係が多く、1000件を超えました。小林武先生がおっしゃった通り、変換器はとても面白くて、夢中で取り組みました。また、辛い昇進せず、エンジニアとして現場にいられたのもラッキーでした。記憶力と身体能力が衰えても知らなかった技術に接するとワクワクします。

現在は、自営で仕事をしていますが、楽器用のアンプやマイクロホン用のアンプなど、楽しめる音ができるような製品作りを目指しています。将来の目標は「イオンマイクロホン」を含むプラズマを用いた電気音響変換器(スピーカー、ヘッドホン、マイクロホン)の製品化です。

「本学の学生にひと言をお願いします。」

秋野 私は本学に入り、充実した学生生活を過ごせました。特に卒業研究は一生の思い出です。大学で学び、サラリーマンとしてのエンジニアを満喫。定年になりましたが、エンジニアの私はまだ続きます。一緒にやりましょう!なお、本学の大学院には「社会人特別推薦入試」があります。若い学生さんと同級生になることができ、楽しく学べました。OB、OGの皆さん大学院はいかがですか?

「今日はありがとうございました。」



AKINO Hiroshi